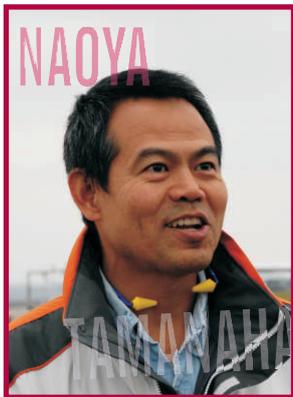


!!! 今月の SpotLIGHT

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介して行くコーナーです。今月はこの方です。



第18支援中隊 エアロクラブ・フライトトレーニングセンター

チーフインストラクター たまなは なおや
玉那覇 尚也さん

Q1. あなたの職種と仕事の内容を教えてください。

主任教官として、マネージャーと一緒にエアロクラブ全体の運営をしています。エアロクラブでは、軍人・軍属とその家族の登録会員に向けて民間の自家用機操縦士免許の取得や免許の更新、飛行機の貸し出しを行っており、その運営はFAA（連邦航空局）の規定と、空軍の規定、それに加え

エアロクラブ独自の規定に沿って行われています。私の主任教官としての仕事には他の教官たちの指導技術のチェックを行い、安全性や質の向上のために必要と判断した場合はクラブの規定や訓練の内容を変更することにも含まれています。エアロクラブには整備士、教官、マネージャー、事務職を含め19名のスタッフがあり、職場内の雰囲気はとても良いです。ただし、最も大切な安全な飛行のための指導や検査は常に厳しく行なっています。

Q2. この仕事に就いてどのくらいになるのですか？

大学卒業後、沖縄県内の県立養護学校（現在は県立特別支援学校）で教員をしていたのですが、パイロットになりたいという子供の頃からの夢をかなえるため25歳で渡米し、教官の資格を取りました。帰国後は1年半ほど東京で飛行に関する講習をする、いわゆる座学の教官をしていました。そして今から15年前の1995年になりますが、嘉手納基地にアメリカで取得した免許を使って仕事が出来るところがあるということを知り、飛んで帰ってきました。何と言っても、実際に飛行機に乗って教えることが出来るというのが魅力でした。

最初の1年半は契約社員として働き、エアロクラブが半年間閉鎖しその後再開したときに主任教官として正規雇用の従業員になりました。正規雇用になるまでは米陸軍トリステーションを含む他の職場での事務職も経験しました。15年前は日本人の教官は私1人だったのですが、今は日本人の教官も増え、皆契約社員として働いています。ここエアロクラブで教官としての経験を積み、日本や海外の航空会社のパイロットとして就職した方たちもあり、よい人材育成の場となっているのではないかと思います。

Q3. アメリカ人の生徒を訓練する上で、日本人との違いを感じることはありますか？

日本人に比べるとアメリカ人は恥ずかしがることなく疑問に思ったことはどんどん質問をしてくれます。教える側として生徒がどこで問題に引っかかっているのか、どこを難しいと考えているのかを知ることが出来るので助かります。もちろん生徒1人ひとり知識や予習の量に違いがあるので、そこをどう工夫して安全な飛行パイロットを育てて行くかがプロの教官としての使命だと思っています。

(インタビューは次ページへ続く)



(写真全て、米空軍：チャッド・ウォーレン上等兵撮影)

(前ページより続き)



Q4. この仕事をする上で、心がけている点・改善したい点がありますか？

飛行機の事故は重大事故につながることもあるため、常に安全に気を使っています。毎月一度、登録会員とスタッフ全員で安全会議を行い、アメリカなどでの事故事例や、訓練中に気がついた点などを話し合い情報の共有をしています。仕事などで安全会議に参加できない場合には、その模様を録画したビデオを見てからでないと飛行できないという決まりになっています。



私の仕事は教官たちの指導技術に関する監督として、飛行や安全に関する知識の検査を行なっているのですが、私にも半年に一度アメリカ本国から来るFAA（連邦航空局）検査官による検査が入ります。その時はいつも緊張しますが、飛行業界では絶えず誰かに検査・監視してもらわないといけないという決まりになっています。



(写真全て、米空軍：チャッド・ウォーレン上等兵撮影)

とにかく安全第一で、気の抜けない職場です。改善したい点をあげるのなら、沢山ありますが、アメリカで飛行機を操縦していた人たちがここ日本、沖縄で飛行する場合に、アメリカよりも厳しい日本の飛行ルールを理解してもらいより良い指導方法を考えていきたいです。

Q5. 仕事をしていて嬉しいこと、楽しいことがあればお聞かせ下さい。

通常、エアロクラブでは100時間以上の座学、約10時間のシミュレーターを使った飛行前訓練、そして平均約70時間の飛行訓練を免許取得までに行なっています。多くの方が一年以上をかけて訓練を受けています。その訓練の中で、飛行に関する技術、知識共にほとんどゼロからスタートした生徒が所定の講習の後、初めてのソロ飛行（1人で飛行をすること）を成功させた時に最もやりがいを感じます。エアロクラブの伝統なんですけど、記念としてソロ飛行の際に着用していたTシャツの後ろ半分を切り、そこに皆で寄せ書きをします。小鳥が産毛を落とし、飛び立っていくのに意味をかけているらしいです。初のソロ飛行を終えた生徒の嬉しそうな笑顔を見ると、こちらもとても嬉しくなります。

SpotLIGHT

嘉手納基地にあるエアロクラブでの訓練は、風の強い気象条件や滑走路を使用する軍用機の多さなどから他の地域に比べるととても厳しい環境下での訓練となります。でもそれが、ここで受講した生徒達のアメリカに帰国後、カテナで訓練をして良かった、カテナでの飛行経験が役に立ったという声につながっています。

Q6. 同じ仕事に就きたいと考えている方々へメッセージをお願いします。



この仕事にはまずアメリカでの飛行教官としての資格が必要です。そして、英語力と経験も大事な要素です。私も初めは言葉と経験が壁になり、生徒に他の教官に変えてくれと言われたことがあります。もちろん落ち込みましたが、それは事実として受け止め、勉強するしかありませんでした。今では経験と共に知識も増え、色々なケースに対応できるようになってきました。

しかし、教官としての向上心はいつでも持っていなければなりません。航空の規則は常に変化し、飛行機の性能や装備品は技術革新により進歩し続けています。それらの変化に敏感で、研究を怠らないという姿勢がこの職種には求められています。常に安全なパイロットを育てるという意識がなければ成り立たない仕事です。私自身日々研究を重ねていて、現在は大学院で航空教育工学の修士号取得を目指しています。これからは、航空という面で地元沖縄に貢献できればいいなと思っています。



嘉手納町立外語塾卒業式

GRADUATION CEREMONY 第18航空団広報局



2010年3月5日(金)嘉手納町立外語塾(Kadena Language Institute)の第11期生卒業式が嘉手納町ロータリープラザ2階ホールにて挙行されました。

嘉手納基地第18航空団にとって、同塾はKLIとして親しまれ、年間を通して多くの交流活動を推進してきました。スポーツや遊びを通し、米国の中高生と英語によるコミュニケーション力を高める基地内ティーンセンターとの定期的な交流や、およそ一ヶ月に及ぶ基地内での職場体験学習であるインターンシッププログラムなど、嘉手納町の隣に在る広大な英語圏である嘉手納基地の住民との実践的外国語習熟の機会を提供することができました。

Kadena Language Institute

航空団を代表して、第18任務支援群司令官ケリー・フレッチャー大佐夫妻が式典・懇親会に出席し、祝辞を述べ、更にベスト・インターン賞を授与する機会を得て、卒業生たちを約2年間見守ってきた司令官夫妻にとっても記念すべき一日となりました。とくにシェリー・フレッチャー夫人は個人的に沖縄文化に強い関心をよせ、学生らと共に数ヶ月間週一回の琉球舞踊の練習に励み、昨年10月の野国總管祭りで踊った「四つ竹」に続き、卒業生と一緒に「かじやで風」を踊れたことに対し感謝するとともに感激一入です、と感想を述べていました。



嘉手納基地第18航空団はこれからもKLI塾生の勉学・人材育成に協力、支援を続けていきます。



2010年 春



CONGRATULATIONS!

(写真提供：嘉手納外語塾)